

○1番(近藤 治隆君) 議席番号1番、近藤治隆でございます。

それでは通告書に基づいて、6月の一般質問をさせていただきたいと思います。

早速ですが、1つ目の質問に移らせていただきます。1つ目は学校教育の日本地図についてでございます。

教育現場では、当該地域のみが載った分割地図等を使っているケースが多いと思われませんが、実際に私が小中学校の時も分割地図、いわゆる沖縄が東京の下にあるような分かれた地図ですね、よく天気図とかで見るような地図であるんですけども、それを使われていた記憶があります。それが場合によっては例えば本州の左上に北海道があるとか、そういうような位置関係がはっきりしない地図を使われていることもありまして、それを現在の日本のことを考えて、しっかりとした領土を意識した教育をしていただきたいなと、私は必要だと思って質問させていただきます。

排他的経済水域とか公海とか、いろいろ名称がありますけども、それが何なのかとか、どういうふうに国がそれで形成されているのかというのをしっかりと小中学校のころから意識づけることで、今問題になっている尖閣諸島の問題や竹島の問題、北方領土の問題等、いろいろありますけども、それを自国だと主張するとか、そういう意味でも、教育の現場では必要なのではないのかなというのが私の意見です。だからこそ、子どもの教育現場では、日本の領土を意識した地図を使っていただきたいなと。全てが全てではないんですけども、子どもの目にそういうのが入るようなものを使っていただきたいと。

そこで今からお見せするんですけども、このような日本全体の地図を子どものうちからしっかりと目に入れることが重要なのではないかなと(近藤議員 資料を示す)。中国、韓国がなぜ小さな尖閣諸島、竹島というのをねらっているかというのは、この地図を見ると一発でわかると思うんですね。中国に関しては、特に国土は大きいのですが、沿岸部の小ささから、これから食料問題とかにもかかわってくるために、歴史的な認識を変えてでも主張したいわけだと。だからこそ、私たち日本人もしっかりとした歴史的認識を持ちながら、もちろん、その中で国土というものをしっかりとわかっていただきたいなという意味で、こういう地図を使っていただきたいなというのが私の考えです。

その上で、このような地図を勉学に取り入れていただきたいと思うんですけども、教育長の見解を伺いたいと思います。

よろしくをお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 岡野譲治教育長。

○教育長(岡野 譲治君) 近藤議員の学校教育の日本地図についてのご質問にお答えをいたします。

議員のご指摘のように、教科書等では学ぶ目的に応じた内容の地図が掲載されており、また物理的な紙面の制約もあることから、地域に分けた地図の扱いが多くなっており、

平成26年1月28日、我が国の領土に関する教育や自然災害における関係機関の役割等に関する教育の一層の充実を図るため、「中学校学習指導要領解説」が一部改定をされました。

この改定の地理的分野の概要は、「竹島について、我が国の固有の領土であり、韓国によって不法に占拠されていること、韓国に対して累次にわたり抗議を行っていること等を扱うこと。また、尖閣諸島については我が国固有の領土であり、また現に我が国がこれを有効に支配しており、解決すべき領有権の問題は存在していないこと等を理解させる」となっております。

この改定に基づき、社会科における領土における指導では、子どもたちの発達段階に応じて、北方領土や竹島、尖閣諸島をはじめ、日本の領土・領域について理解を深めていきたいと考えております。

今年度採択が協議され、来年度から使用される予定の小学校の地図帳において、「日本とその周り」の章で、東京からの距離と方位の正しい日本地図が取り上げられております。そこには日本の領土や排他的経済水域等が取り上げられており、日本の北端をはじめ東西南北の端にある島々も含め、日本の全体の領土に関して理解を深める内容となっております。このような教材も活用しながら、指導要領に基づき学習していきますので、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) ありがとうございます。

これは自民党の青年部から打診をいただいて、各市町でやってほしいということではべらせていただきました。その中で、日本の排他的水域の中心になっている島というのはほかにもあります。南鳥島とか硫黄島とか、あと沖ノ鳥島、与那国島とかもそうなんですけども、映画で名前は結構知られている島ではあるんですけども、なかなか場所を言えと言われると、私自身しっかりとそういうところを勉強するまでわかっていなかった部分もあります。小中学校と、しっかり勉強したかといったらそうでもないかもしれないので、そういうことになるのかもしれないんですけども、やっぱり知らない方もいらっしゃいますので、ぜひともこういうのを機会に、日本の領土という問題をしっかりと小学校のころから勉強していただきたいなど。それは領土観であったり、歴史観も学んでいただけるような環境をぜひともつくっていただきたいと思っております。

これで1つ目の質問を終わらせていただきます。

早速早い時間ですけど、2つ目の質問に移らせていただきます。2つ目は東員町の将来についてでございます。

最近の一般質問では何度も質問しています。正直余り理解できていないというか、自分と合っていないというか、何とも言いづらいところもありますけども、本日はその中でも絞って、町長のほうに、どういう考えなのかを聞いていきたいと思っております。

1つ目は北勢線の東員駅前開発というか、いわゆるスマートシティ構想と言われていた計画は先行きが難しいと聞いているんですけども、どうするのか。また、今のまま放置するのか。

2つ目、インター周辺の開発は3月議会でも話したんですけども、申し出があれば考えると言われておりましたが、結局全て受け身なのか。東員町としては何もなくて、構想も何も考えていないのか。

3つ目、役場、学校施設、スポーツ施設などの公共施設はこのまま継続維持するのか、それとも何か考えておられるのであれば、細かく教えていただきたいなと思います。

4つ目は東員町の農業政策として、果樹農家に移行していくのか、それとも果樹は何か違う意味があってやっておられるのか。

この4点について、10年とか5年とか、そういうのではなくて、もっと長い目で、20年、30年見通した見解をお持ちなのかということも含めて、どのような政策を打つのか打たないのか伺います。

よろしくをお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷俊郎町長。

○町長(水谷 俊郎君) 東員町の将来についてということで、ご質問をいただきました。

まず1点目の東員駅前開発に関するご質問でございますが、これは3月議会でも答弁をさせていただきましたとおり、東員駅を中心としたコンパクトシティ構想は、関係法令の規制等が厳しいことから、一気に進めるということは難しいと判断をいたしております。

しかし、東員町の将来を見据え、東員駅を中心に人が集まり、憩い、交流できるまちづくりというものは、東員町の将来にとっても核となるエリアということで、重要な、そして必要なものであると私は認識をしております、しかし行政だけで進められるものでもなく、民間の力をかりるなど、さまざまな視点からの模索も必要ではないかということを考えております。

また、公共交通と連携したまちづくりという視点から、この10月にはオレンジバスのルートが東員駅を発着点とするというか、そういうふうに変更をすることでございます。

そういう意味で今後も少し区画を狭めながら、民間の活用ということも考えながら、引き続き検討してまいりたいというふうに思っております。

次に東員インター周辺につきまして、これも3月議会でお答えをさせていただきました。平成27年度に供用開始が予定されております、東員インター付近の開発ということでございますが、インター周辺の多くは、現在も農業振興地域の農用地区域でございまして、この区域は農地法や都市計画法の規制がある区域でありまして、開発には関係諸法の制約がありますことから、非常に困難な状況と認識しているところでございます。

農業振興地域は優良農地でございますので、農用区域以外の開発計画につきましては、内容にもよりますが、可能な限り相談や要請に応じさせていただきたいと思っておりますし、関係機関と十分協議を行いながら議論してまいりたいと考えております。

続きまして、公共施設のあり方、運営方法の考え方についてのご質問にお答えをいたします。

今後、厳しい財政状況が続く中で、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されることを踏まえて、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行うことにより、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設の最適な配置を実現することが必要となっております。

総務省では、自治体の規模に合った資産管理を促すため、老朽化した公共施設が相次いで更新時期を迎えるのに備え、施設の長寿命化や統廃合などを適切に判断するため、平成26年4月22日付で「公共施設等総合管理計画」の策定に当たっての指針が示されたところでございます。

これを受けまして、町としても指針に基づいた計画づくりの検討をはじめ、庁内の関係会議で方向性を整理し、今年度は計画書の基礎資料となる施設情報のデータベース化を進める予定にしております。この基礎資料をもとに、指針に基づいた公共施設等総合管理計画策定を推進してまいりたいと考えております。

なお、施設の老朽化診断などにより早急な改修が必要なものにつきましては、必要に応じて対応をしてまいりたいと考えております。

次に、農業政策のご質問でございますが、本町の農業は、言うまでもなく水田を活用した農業が中心であり、水田を守り、農村環境を維持していくことが重要な課題であると考えており、今後もさらに経営の省力化を図れるよう、農地の利用集積を進め、効率のよい栽培方法の導入など、検討を行い、安心して農業を営んでいただけるよう環境整備に取り組んでまいりたいと考えております。

果樹栽培につきましては「喜び農業推進事業」の一つとして取り組むものでございまして、本町の新しい魅力づくりとして、将来、観光農園の開設や6次産業化への発展を期待するものでございまして、長深地区で実証ほ場を行い、稼ぐことのできる農業として成果が見えたら、新たに参画いただける農業者とともに果樹産地となるよう栽培面積を増やしてまいりたいと考えております。

また、果樹だけではなくて野菜栽培の可能性も探り、遊休化した町内の畑地や耕作放棄地となっております水田を畑地化し、農地の有効利用にもつなげてまいりたいと考えてございまして、長深地区の果樹のところでも申し上げましたほ場につきましても、野菜ということも視野に入れて、耕作放棄地対策ということで進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤治隆議員。

○1番(近藤 治隆君) ご答弁いただきましてありがとうございます。

4点ありますけども、1点1点、再質問をしていきたいと思えます。

先ほど1つ目のコンパクトシティでしたか、すみません、ちょっと言い間違えていました。コンパクトシティに関してですけども、民間と言われましたけども、どういう民間の力を使われようとしているのか、お聞きしたいです。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 恐らくあの地域はご承知のように調整区域、農振農用地ということで、なかなかそれを一気に進めていくという法律に基づいた根拠がございませんので、まずは町で判断できる2ヘクタールぐらいということを目標として、何か駅前、そして役場をつなぐエリアとしてふさわしいもの、あるいは将来のコンパクトシティの考え方に合致できるようなもの、そういうものに合った開発を進めていただけるような民間業者がいらっしやればいいなというふうに考えております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) すみません。アバウトでいまいちわからなかったんですけども、そういう開発業者が出てくることを求めて、基本的にはそれも受け身の状態でよろしいですかね。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) このことにつきましては、今、地権者もあることですので、我々が強引に進めることというのは当然できないことございまして、我々としては働きかけはしたいなと思えますけれども、その中で、ある程度目処が立ってくるような民間業者ということで頭の中には考えているのですが、今のところ、そういう事業者があらわれるというようなことはありません。

前の議会の時にもご答弁申し上げたかと思うんですが、民都ですね、民間都市開発機構、これは国交省の関係の団体でございますが、そういうところとか、二、三、いろいろご相談も申し上げ、ある程度能動的にも相談をさせていただいたこともございますが、なかなか前へ進んでいないというのは現状でございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 前に進んでいないというのは何度も聞いておりますけども、実際、選挙までは1年切ったところでございますけども、その間で何かされるということではございませんか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) これも約束の1つですから、私としては何か進めて、糸口だけでも見つかるというふうには思っておりますけども、相手もあることですので、今どうなるかということは私にもわかっておりませんので、よろしく願います。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) わかりました。

2つ目の質問ですけれども、インター周辺の開発に関しては前回も多々聞きましたので、同僚議員の方も言っていましたし、3月議会で私も言ってますけれども、都市マスの道路計画が進んでいませんというのが一番僕は問題かなと。そういう意味では都市マスが1つの歯止めになって、東員町全体がおかしくなっているのかなというのが僕の見解です。

東員町全体を見ても、ネオポリス以外は余り計画された道路という感じはしないのですね。もともとある在来地域に対して抜けるような道路とか、そういうのがほとんどだと思っています。

町の構想を考えると骨組みとなる道路ですね、それを行き当たりばっかりで、つけていけばつけていくほど、結局窮屈な町並みになっていくのかなと。それこそ田舎町ですというふうに売り出すのであれば、そんな計画した道路も要らないのかなとは思いますが、そういうふうに売り出してもないわけなんで、基本的には、やはり皆さまの利便性を考えた道路設計等も行っていかなければいけないのかなと思っています。

その中で特にインター周辺のことなので、運送関係の建屋というか、そういうのを引き込むにしても、結局のところ、僕は道路設計がしっかりしていないとダメなのかなと。瀬古泉の工業地帯を見ても、4トントラックでさえ通れないような道になっていたりとか、どこかからは入れるんですけどもわかりづらい、そして一部冠水している部分もあります、大雨の日なんかは。そういう問題が、結局のところ山積みになっていくんですね。これが計画を立てずに、建っていったものなのかなと。あそこは逆にここを工業地帯にしますという形で建っていったものなので、後付けになっているのかなと。そういう意味では、インター周辺もしっかりとした設計をしていかないと、また乱雑に建つ可能性は十分にあると思うんですね。

3月議会で言われてましたけれども、実際に行政が許可を出すんだから、行政がしっかりと指示をしていけば乱雑に建つことはない。ただ、それは確かにそうなのかもしれませんが、先ほど町長言われましたよね、地権者の問題があるんですよ。その辺のことを考慮したら、どうやってもこの人は売ってくれないので、ここに建てたいという方がいたら、そのまま建ってしまったら、また乱雑な工業地帯というか、商業施設になるのかなと思うので、ぜひとも東員町としてはそういう計画だけでも、まずやっていくべきなのではないかと思いますが、町長のお考えをお伺いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 東員インター周辺につきましては、先ほども申し上げましたように、ほとんどが農振農用地でありまして、開発はできないと。農業を守るべき地域ということになっておりますので、そのところは手はつけられないだろうというふうに思っております。

また、それ以外、いわゆる白地と言われる部分につきましては、どういう方、どういう企業が申し込みがあるのか、今のところ何もありませんので、申し上げられませんが、そういうものを審査をさせていただいて、本当に乱開発にならないかということをきちっと

判断をさせていただいて、当然、地域の方、地権者の方ともお話をさせていただいて物事を進めていくという手順を、きちっと踏みたいというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) そのような答えが来るのかなと正直思っていました、ではこれ1つの質問にさせていただいているのは、多岐にわたってという意味でなんですけども、じゃあ駅前の農業地域は開発してもいいのですかね。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) あれも農業振興地域でございまして、基本的には難しいと。それは先ほどから言っているとおりなんです、町の方向性として、本当に駅前というものを考えたとき、そして東員町の核というものを考えたときに、そのままできないからといっていいのかなという思いはあります。

そして、あそこは人を呼び込める場所、そして鉄道、バス、公共交通ですね、そういうものを大いに活用できる場所であり、東員町としての顔づくりというのできる場所ではないかなということで、開発というものを進めたいなというふうには思いますが、先ほども言いましたように、規制が厳しくてなかなか難しいのですが、町としての意向、これは町としての方針というふうにお考えいただいてもいいと思うんですが、そういうことで、あの場所をコンパクトシティというのは、もっと大きくなってからなんです、もうちょっと利便性の高い場所にしていきたい、そして町民の方が活用していただけるような場所にしていきたいということで、これも当然地権者の方、それから事業者の方が来ていただけますれば、そういう方と、きちっと手順を追って話し合いをしながらやっていきたいというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 町としての方針という力強い言葉をいただいたんですけども、私が聞いている限りで申し上げますと、東員町内駅前を開発したほうがいいという方は余り聞いたことないですし、インターの周り、何とかならんのかということとはよく聞きます。それは多分、議員の皆さまなら大体わかると思うんですけども、僕が聞いているのは、基本的に町長がそういうふうに進められたと思うんですけども、なぜインターは農業振興地域、農地のままにしておいて、駅の前だったら逆に開発したほうがいいんじゃないか。人が呼べるのはどちらも一緒です。ただ単に車を使って来られるか、北勢線を使って来られるか。確かに北勢線を使って来られた場合に、北勢線の利用量が上がって、今の補助金とかが減るという考えもあると思うんですけども、逆にいえば北勢線で来る方がどれだけ多いのかという話にもなってくると思うんですよ。その違いが僕にはわからないので、町長にお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) インター周辺というのは、ほとんど車で行かなければならないということであると思います。しかし駅周辺、あるいは先ほども答弁をさせていただきました

たけども、オレンジバスなんかを東員駅を発着とした、中心とした体系に組みかえるわけでございますけれども、公共交通を利用するということにつきましては、一番多いのは交通弱者といわれるお年寄り、あるいは学生、そういう方が非常に多いというふうに思っておりますが、こういう方たちの利便性、そしてこれからは余り車ばかりに頼らない社会づくりというのには必要ではないかと。

私は初めに駅前のコンパクトシティ構想をお話をさせていただいた時には、ここへきたら車を入れたくないねという話をしていたんですが、車に頼らないこれからの社会づくりというの、テーマの一つではないかなというふうに思っておりますので、そういう面でも、駅前ということは非常に重要なのではないかなというふうに思っております。

また、東員駅につきましては、役場との距離も非常に短い中で、こういう場所で人が集うということ、車に頼らずに来られるよという、そういうエリアが必要なのではないかなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) すみません、余り理解できませんけども。

私が聞きたいのは、あくまでどう違うのだと。役場に近いかから駅の近くなのか、逆にいえば電車がいいと言われておりますけども、今の時代というのはEV車とか、いろいろ出てきましたよね。今回、商業車でEV車も出ましたし、今回のテーマとしては20年、30年先のことを考えるならば余り変わらんのかなというのが僕の考えです。そればかり聞いていても時間がどんどん過ぎていきますので、インター周辺のことは終わりにしたいと思うんですけども。

すみません、町民の方は結構インター周辺どうなっているのというのは聞かれるんですけども、では1つだけ聞きたいんですけども、コンパクトシティ、だれのためにやっているのですか。コンパクトシティというのは、東員町駅のところというのは、町長はだれをターゲットにしているのかということですね。要は交通弱者の方をターゲットにしているのか、それとも全然違うのか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 先ほども申し上げましたように、町の顔というか、核としての中心市街地ということで考えておまして、当然、交通弱者の方も入るでしょうが、若い人、それから高齢者の方、みんながそこで集えるような場所というふうに考えております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) ターゲット層は全員ということでいいですかね。もうちょっと政策を打っていく上で、ターゲット層というのは決めたほうがいいように思われます。

こればかりやってもだめなのということで次にいきますけども、ちょっとすみません、順番違うんですけども、逆に果樹農園のほうですね、そちらのほうを先に聞いておきたいと思うんですけども、東員町の一つの顔というか、喜び農業の一つとしてやられていると思うんですけども、1つだけ疑問に思っているのは、3月議会ではいろいろ委員会の



ほうで話し合いがあって、賛成のほうには回っているんですけども、実際に私としては、何か意味がわからんというのがよくありまして、なぜかという、いくらブルーベリーが盛んになっても、今の農業の基本的な問題点は担い手です。先に担い手のことをするべきではないのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 本町の農業に関しましては、先ほども答弁させていただきましたが、ほとんどが水田農業でございます。野菜をつくっても、ハウスはほとんどなくて路地物でございますので、大体同じ時に同じ物がたくさん出てきて、ないときは全然ないというようなものが、この東員町の農業だというふうに思っておりまして、極端な話をすれば、米だけというのはほとんどです。

そういう農業で、どんどん農業者が疲弊をしていっている現状があるというふうに見ております。その中で農地集約して大規模化をして、何とか農業をやっていけるような体制をとろうよということで、国から号令があって、ずっと進めているわけですけども、現実問題、なかなかじゃあ農業で食べていけるところはどのぐらいあるのかといたら、そんなに増えてきているわけではありません。

本町の農業の問題は、私は構造の問題だと思ってまして、米だけで農業で食べていくということは、恐らくかなり無理があるだろうと。例えば100ヘクタールぐらい米をつくれれば、それはスケールメリットであるかもわかりませんが、100ヘクタールとか50ヘクタールとか、そういう農業になりますと、かなり農地を集めてくるのにも無理があって、しかも1つにまとまるということもなかなか難しい中で、やはりバランスを考えたとき、野菜であり、果樹でありというものがあって、バランスよく農業というのが成り立っていくのではないかなと。

この足りない部分を、東員町として行政も中へ入って、農業者の支援をしていくという観点から、米以外の作物というものができないものかということで始めたというのが喜び農業でございます。あくまでも稼げる農業を目指して我々も支援をさせていただきたい、その先鞭となるものだと理解をしております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 話されている内容は重々わかるんですけども、僕が言っているのは、あくまでも担い手の話なので、担い手がいなければ、それも栄えないと思うんですけども、そっちのほうを先に方向性としては出していくべきではないのかなという話なんですけども、いかがでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 先ほどからも言ってますように、稼げる農業ができないことには担い手もできないわけですし、担い手が先か、我々がやろうとしている施策が先かというのは、にわとりと卵の議論みたいなところがありまして、どちらが先かというよりも、やはり東員町としての農業の構造というものを変えていかないと担い手も出てこないというふう

に考えておりますので、当然担い手というものは必要でございますけども、東員町の農業、構造を変えるということは非常に重要な課題ではないかなと思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 構造を変えていくことが先であるべきだという感じですかね。にわとりと卵というのは何となくわかるので、逆に質問を変えてみたいと思うんですけども、実際に構造を変えるのはどれぐらいかかるんでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 何度も申し上げますように、今、東員町というのは水田のみということで、稲作のみということで、野菜、あるいは果樹というものが大規模にやられているという実績は全くないわけです。そこへ切り込もうということですから、農業の問題がすぐに片づくものなら、日本の農業の今の現状はないものというふうに思っておりますので、少し時間はかかりますけど、いつまでとは申し上げられませんが、できるだけ早く先を見越した結論が出てくるといいなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 私はいつまでということですが、10年後にはできますという答えが欲しいわけではなく、こういうプランでやっていますという答えが欲しいだけで、今までいろんな質問をしてきたんですけども、いついつまでにやるというのが基本的には余りないように行政は思われます。なるべく早くとか、何とかできるようにしたいと思いませんか、これははっきり言って民間企業だとあり得ないですよ。基本的にはプランを立てていただきたいから言っているのですね。

米がもうからないとか、そういうのは実際問題、TPPに入ってからじゃないと全くわからないですよ。もしかしたらTPP入らないかもしれないですし、そういうことを考えていくと、いろいろやってもらうのは構わないんですけども、何にしろプランがない。ということは逆にいえば20年でも30年でもまだ成功してないのですよとあって、どんどんお金だけを消費していく。これは税金の無駄ではないかなと思うんですけど、その点、プランとかはしっかりと考えられているのでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 今、この場で申し上げられませんが、企業も巻き込みながら、今、我々が考えている方向の農業というものを目指して、地元での雇用ということも含めて、あるいは農業にお手伝いをいただくということも含めて、地域と一体となった新しい農業というものを目指して検討をしている最中でございますので、その辺が整いましたら、皆さんにもお話をさせていただきたいと思っておりますが、企業という側面もございまして、今申されました時間的にいつまでどうのこうのという、だらだらしたようなお話にはならないというふうに思っておりますが、これは相手もあることですので、少し本論については控えさせていただきます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 相手があることですので控えさせていただきたいという、僕はその辺は質問してないんですけども、どれぐらいのプランなのかと、時間のことを聞いているわけで、相手のことを聞いているわけではございません。その辺しっかり答弁をお願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) ですからプランが全くないわけではないと。そして時間的にも、ある程度きちっとしたものを出せる、そんな時が来るのではないかなというふうに思っておりますということでございます。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 全く同じ内容で質問するのも嫌なんですけども、プランを出すまでにどれぐらいかかるとか、それぐらいは答えられるんじゃないでしょうか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) ですから今ちゃんと計画してやっているわけですよ。ですからそういうことをここへ今出せないと、相手あることですから出せないということでございますので、決して隠すわけではないので、決まりましたら出させていただきますので、それを見ていただければ、はっきりとわかっていただけというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 喜び農業、何となくわかりましたけども、要するにどれぐらいかかるかはわからないけども、プランはできたら出しますと。だから予算をくださいというのは、はっきり言って筋が通らない。これ町民の方が聞いても、どう見てもプランがないにしか聞こえないではないですか。基本的には時間というのは有限にあるわけではないのです。しかも行政においては、1年ごとに配置が変わったりとか、首長でさえ4年に1回変わるんです。しっかりとした時間というのは制限しないとだめじゃないですか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 今の喜び農業については、先ほども言いましたように新しい果樹、野菜というものを町が入って実験を始めたところです、それについてはね。そしてその延長線上で今申し上げたことをやろうとしているのですが、少なくとも後で申し上げたことについては、今のところ、町の予算を使って云々ということはありませんが、具体的にやってくるとわかりませんが、ありません。

喜び農業については、今、先ほど言わせていただいたように実験段階で、そのものがここに合うのか合わないのかから始めてます。指導者の方も見つかりましたので、ようやく緒についたということでございますので、今できるのかできないのか、ご承知のように農業というのは自然が相手でございますので、それを5年先か10年先かということでも、まず合わないのか合うのか、それまでも明日葉だとか、シソだとか、いろんな取り組みがなされてきたと聞いておりますが、なかなかそれがうまくいかなかったというふうに伺ってまます。

ですから今度は本当にそれが成り立つものになるような方向を見定めようということで、そうすれば農業に幅が出てくるということで、町としての実験ということを考えておりまして、これが農業者の支援になるのではないかとということで始めさせていただいているものでありまして、今から5年、10年というふうに決められるというふうには思っておりませんが、何度も申し上げますが、できるだけ早く結論を出したいというふうに我々は思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 時間も迫ってきましたので、この辺であれですけども、正直全く答えになっていません。これは多分、聞いている方だったら大体わかると思います。僕はあくまでもプランのことを言っているんです。ただ時間稼ぎのためにいろいろグダグダと言わないでください。

では最後の公共施設についてお伺いします。

Jリーグを目指しているプロサッカーチームが、東員町の陸上競技場をホームグラウンドにしたいという打診があったと思いますけども、町長はどのようにお考えですか。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 打診はありません。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 本人に会って打診した、ただ、会ってもらえないというのはありましたけども。そういう意味で打診がないと、いろんな方がそれは聞いていると思うので、町長がないと言われるのであれば、それはうそのように聞こえるんですけども。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) うわさは聞いておりますが、正式に打診を受けた覚えはございません。そしてもう1つ付け加えて言うならば、陸上競技場を規定の使用方法で練習に使っていただいているということは聞いております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 陸上競技場を現状で使ってもらっているのを僕も知っています。

公共施設について、いろいろとお金がかかっているなど。陸上競技場でいうと2,000万円弱毎年かかっているわけですけども、その点を指定管理とか、いろんな意味で発展させていくべきなのかなと思って、そういう打診があったというふうに聞いていますので、そういう中で町長がどうこうかわからないですけども、実際にそういう書類もあったみたいなので、出てくるとは思いますけども、それで町長が知れないというのだったら管理不行き届きなのかなと、ちょっとおかしいんじゃないかなと思いますけども。

Jリーグを目指しているプロチームが陸上競技場を使ってもらう、結構夢のある話だと思うんですね。実際に私はいいい話やなと思って、いろんな方にもしゃべってたんですけども、それをうわさだけで何も、どういうふうに思われたのか、もう一度お願いします。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 質問の趣旨がよくわかりませんが、別に陸上競技場を使っただけということ、それだけ管理費のためにもいいことなので、規定どおりのことでお使いいただくのは一向に構わないというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) すみません、ホームグラウンドとしてもらうにはという話です。ホームグラウンドとしてもらうには、そういう話を聞いたんですね、チラッと。正式に打診は来ないけども、そういう話は聞いたんだと思うんですけども、それは町長としてはどういうふうに思っているのかということを知りたいのです。

○議長(木村 宗朝君) 水谷町長。

○町長(水谷 俊郎君) 陸上競技場を使っただけということなら大歓迎なのですが、そうでないとして、陸上競技場をホームグラウンドということになりますと、我々としては使っただけというのは結構でございますが、何せ公共施設でございます、陸上競技、トラックなどもございまして、ほかの競技者との関係もございまして、また、Jリーグとなりますと、恐らく観客席の増築とか、そういうことも出てくるのかなと、これは想像なんですけども、しております、そういうことは考えておりませんので、ホームグラウンド化ということにつきましては、なかなか難しいのかなというふうに思っております。

○議長(木村 宗朝君) 近藤議員。

○1番(近藤 治隆君) 陸上競技場ということで、実際でも陸上競技として使われているのは、全然サッカーよりも頻度が低いということなんですけども、現状で実際に東員町の財政を圧迫しているような感じは少々見受けられるのですけども、中部公園も圧迫しているといえば圧迫しているのでしょうか、ただ、人が入っていると、島田議員とかも言われてますけども、しっかりと収入源とかをつくっていけば変わるのかなという感じはするんですね。

ただ、今の陸上競技場というのは、正直サッカーの目的以外で使われている頻度はすごく低いと思うんですよ。そういう意味では、最初は確かに陸上競技のために使われてきたが、今後財政のことを考えて、いろいろな考え方をしていくのも一つのありなのかなと。

私が思うのは、Jリーグまでいったら、それはもう全然収入も取れますし、もちろん夢も持てますし、スポーツ振興の上でもしっかりといきます。文部科学省からクラブハウスというので推奨している部分もありますので、そういうのも全部検討していただいて、しっかりと先々の東員町の子どもたちのためにも夢のある話でいいかなと思っておりますので、ぜひとも検討していただきたいと思っております。

全く打診がないというのであれば、私も相手先に一回会ったことがありますので、どことは言いませんけども、何か全く打診がなかったらいいですよというふうに、そのまま伝えておきますので、どういう打診があるのか、今後わかりませんが、町長としてこのまちを発展させるために、人口を増やすのも一つの手ですけども、外から人を呼ぶのも一つの

手だと思います。例えばサッカーチームがあるのであれば、北勢線を使って来る方もいらっしゃると思うんですよ。なぜかという、車を持ってない方でも来れるということなんですからね。

そういう意味で、外から人を呼べるような魅力のあるまちをつくりたいというのが、僕の東員町に対しての思いですから、どういうお考えなのかは内々にはようわかりませんが、その辺も先々の東員町のことを考えて、もう一度ご検討していただきたいというのが僕の意見です。

本日の一般質問は、これで終了させていただきます。

ありがとうございました。